

「殺生石」物語考

物語の概略⑦

耆婆は、その夜直ちに、天神のお告げがあった金鳳山に向かう。山は、険峻にして剣のように鋭く、絶壁は屏風のように、鳥も近づけない険しさであった。耆婆は、葛や藤のツタを頼りにしてよじ登り、心胆が寒くなるような難所を凌ぎ超え絶頂に至った。しかし、これが金鳳山かと、確かめる人もいない。が、そこに一本の大樹があつて、見上げると、斧で枝を切っている木こりがいる。木こりは、ここが金鳳山で、この木こそ薬王樹だと答え、耆婆に、一尺ほどに枝を切つて与えた。耆婆は、嬉しさと疲れから、木こりの勧める酒に寝入つてしまう。が、気がつくと木こりの姿は無く、耆婆は、彼が天神であつたことを悟り、その場に九拝する。耆婆は、往路九日を費やして帰宅すると、朝廷の重臣孫晏に事の次第を告げ、薬王樹を見せながら、華陽夫人と問答する機会を設けるよう依頼する。孫晏は他の高官らとともに命をかけて斑足太子に掛け合い、その許しを得る。太子からそのことを聞かされた華陽は、耆婆の愚かさを笑い、今度こそ耆婆を誅殺出来ると喜んだ。その日、百官が居並ぶ問答の場で、耆婆は、一目見せたい物があると言いながら、箱から取り出した薬王樹を、華陽の眼前に差し出す。すると、華陽は突然身を震わせ、何かを叫ぶと見るまに、忽ち、容顔美麗の姿を白面金毛九尾の狐に変じさせた。そうして、あと四五日あれば、斑足太子を殺害し天竺二円を魔界に出来たのにと悔しがり、稲妻に上じて雲井に飛び去つた。斑足太子は、悪夢から覚めたように、その後悪政を悔い改める。

彼が天神であつたことを悟り、その場に九拝する。耆婆は、往路九日を費やして帰宅すると、朝廷の重臣孫晏に事の次第を告げ、薬王樹を見せながら、華陽夫人と問答する機会を設けるよう依頼する。孫晏は他の高官らとともに命



「繪本三国妖婦傳」より

筆者 前那須歴史探訪館 館長

齊藤 宏壽 先生 (湯本在住)

今月のひとこと

学童の手紙添えらる敬老会 ひととき
祝辞の前の和む一時

かつこう

「秋深き隣は何をする人ぞ」元禄7年9月28日、旅先で体調を崩した松尾芭蕉は秋の静寂の中でこの句を詠んだと言われている。300年以上経つた今、隣に住んでいる人は何をしているのか分からない」と解釈する人も多いのではないだろうか。暮らしが豊かになり各家庭内での生活が何不自由ない現代では「向こう

三軒両隣」という言葉も使われなくなつた▼少子化や核家族化によつて地域のつながりが薄れる中、高齢者や障がいを持つ人、子育てや介護の悩みを抱える人の相談役として民生委員・児童委員が活動している。本町でも53名が厚生労働大臣の委嘱を受け、支援を必要とする住民と行政をつなぐパイプ役を担っている▼先月末、民生委員の一日体験が初めて行われ、町内中学生が高齢者宅を訪問した。民生委

員の活動は個人の私生活に立ち入ることが多くその職責は軽くないが、参加中学生からは「今後はお年寄りに積極的になりたい」と前向きな感想が聞かれた。日頃の声掛けが大切だという気付きこそ大きな成果だろう▼芭蕉は「隣の人は今一体何をしているのだろうか」と人懐かしさを詠んだ。高齢者等の孤立が懸念される現代、民生委員で遣う心が必要だと感じる。

こんにちは 赤ちゃん



千葉 零月 ちゃん (下川)

平成29年 7月12日生

父 直彦さん 母 亜紀さん

零月ちゃんは…

笑顔がかわいい零月ちゃん♡
パパとママの宝物♡

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,290世帯 (+11)
・人口 25,394人 (-3)
男 12,592人(-13) 女 12,802人(+10)

あなたの「声」を聞かせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。